

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障がい者スポーツ論 Adapted Sport therapy		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	講義	選択	(選択・資格課程必修(初級障がい者スポーツ指導員))	後期に障がい者スポーツ演習を履修する者である
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
斉藤 智子	月曜日14:30～ 17:40	授業内で指示する		授業中に指示します
授業の概要				
介護施設や運動施設には多くの障がい者がいる。その障がい者の運動機能の維持・向上や精神機能を賦活化させるために運動・スポーツは大変有効な療法として広く認知されている。障がい者の障がいを知識として理解することにより、優れた対応ができる人材養成を図る事を目的とする。				
授業の目標				
障がい者施設や高齢者施設、またはスポーツ指導者としての指導現場において、障がいを理解しその運動機能の状態を把握できるようにする。さらに障がい者を取り巻く制度や各種大会の理解を習得することで、発展的な広い視野を持てるようにする。				
授業の方法				
教室での理論学習やディスカッション、またはDVDによる「障害者スポーツ」の実際映像の視聴することで、理解を図る。				
学習の成果(学習成果)				
この授業を通じて下記の成果が得られることができる。 ①障がい区分や生理的理解を得ることで障がいの分類が理解できる。 ②障がい者制度を知り、リハビリテーションの一環としての障がい者スポーツから競技スポーツに進化している状況を伝えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	障がい者福祉施策と障がい者スポーツ①			
第2回目	障がい者福祉施策と障がい者スポーツ②			
第3回目	リハビリテーションとは①			
第4回目	リハビリテーションとは②			
第5回目	ボランティア論①			
第6回目	ボランティア論②			

第7回目	障がい者スポーツの意義と理念①	
第8回目	障がい者スポーツの意義と理念②	
第9回目	安全管理	
第10回目	日本障がい者スポーツ協会資格認定制度	
第11回目	全国障がい者スポーツ大会の概要①	
第12回目	全国障がい者スポーツ大会の概要②	
第13回目	障がい者スポーツの意義と理念③	
第14回目	テキストに基づいた筆記試験とレポート「自分にとっての障がいスポーツとは？」の作成・提出	
第15回目	まとめ：試験結果からの復習・補習	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	積極性や発言力、仲間とのコミュニケーションなどの授業態度から判断する。
レポート	30%	テーマ「自分にとっての障がいスポーツとは？」に対してレポートを書き、授業理解度の確認と本人の思考の確認をする。
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	テキストを中心とした前期講義内容の理解度を確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「障がい者スポーツ指導教本 初級・中級」（財）日本障がい者スポーツ協会編 授業担当者より適宜指示または資料を配布する		
履修上の留意点・ルール		
初級障がい者スポーツ指導員資格取得必須科目。意欲・積極性・人間性重視。		